

1ヵ月後の12月18日@
そのミバザを計画中。



日本共産党北区議会議員
さがらとしこ
区政レポート

日本共産党議員団

2022.11.17.No.1898.

御相談はお気軽に

TEL/FAXとも **3905-0970**

さがらとしこ事務所

赤羽北3-23-17

(バス停「赤羽北3丁目」メガシティ近く)



あなたの声を区政に届け、願い実現へ
いはいよ、才4定例区議会です。18日には、区長に直接
来年度の予算編成にむけて、**予算要望書提出**

●「アンケート」の声を紹介しながら、本会議にのぞみます。

北区民
アンケート
2022

日本共産党区議団が取り組んでいる区民アンケートに、現在約900件の回答が寄せられています。そのうち、約300件分を集約した結果の一部を紹介します。日本共産党北區議団

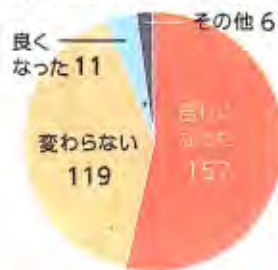


11/22(火)
本会議10時
日本共産党の代表団
山崎たい子区議

11/24(木)1時
個人質問の3番目
さがらとしこ区議

暮らしについて

Q. 1年間で暮らし向きは



Q. 減った収入は(複数回答可)



Q. 増えた支出は(複数回答可)



北区政で力を入れて欲しい施策は(複数回答可)



<事務所にはTELで...>

どうしてこんなに、高齢者への負担を増やさんでしょう。年金は下げられ、一生懸命働いても家賃が高く、物価急騰。大変。



最近、開発という名目で次々と高層マンション(ビル)が立てられていますが、人口が減少していく中で何十年後の管理状況を考えると恐ろしくなります。(50代・会社員)



憲法9条について



物価高騰への経済対策で取り組んで欲しいこと(複数回答可)



暮らし・仕事・年金・法律など

ご相談ください。

日本共産党北区議 さがらとしこ

社会保険労務士 秋山けんたろう

困ったら、☎/FAX **03-3905-0970**

◆留守電の時は、お名前と電話番号をお願いします。

後ほど、こちらからお電話します。

◇さがら事務所 〒115-0052 赤羽北3-23-17

11月1日、東京都では

パートナーシップ宣誓制度がスタートしました。これを記念して、都庁は上の写真のようにライトアップされました。

性的少数者(LGBTQ)のカップルによる宣誓、届け出にもとづいて、都が家族関係を公的に認める制度です。

◎当事者とはじめ、粘り強いとり組みが政治を動かしています。

◎北区も「パートナーシップ制度」をつくりました。これをさらに、「ファミリーシップ制度」とも充実させてゆきたいですね。子どもたちを安心させる制度に広げたいです。

◎都営住宅と区営住宅への入居申込みなどのサービスが、受けられるようになります。

96→80名で原告団再結成 よいよ控訴審がスタート!

●赤羽西86号線の裁判は、東京地裁で不当判決が出されたことから、9月5日(月)、東京高等裁判所に控訴状を提出しました。

高裁での控訴審裁判の1回目は11月22日(火)
午前10時30分～101号法廷でおこなわれます。
「ぜひ、傍聴にかけつけて下さい」とよびかけたい。

86 NEWS

第24号より...

「止める特定整備路線」集会 そのはじめ 都議会議員

●特定整備路線(28路線、延べ約25キロ)の計画が、東京都から発表されたのは、10年前の2012年12月でした。(東日本震災の1年後)「この10年間に、2つの路線しか実現できていません。」
●そこには、優先すべきは不燃化であり、地域の現状と訴えながら、特定整備路線は要りませんと、「何路線もの住民が結集してたたかい、がんばっています。この団結の力は、歴史的にも画期的なことです」と激励しました。



86西沿
毎月2回
赤羽自然
観察公園と
赤羽駅西口
宣伝したい



岩見良太郎氏の講演に傾聴する参加者=3日、文京区

岩見氏は7月25日に行われた北区志茂二丁目の住民らが補助86号線事業の認可取り消しを求める控訴審第10回口頭弁論で、証人として法廷に立ち、補助86号線

岩見氏は品川補助29号線における不合理なシミュレーションを説明、また、補助86号線が整備される北区赤羽西地区には、赤羽自然

その後の質疑応答で、参加者らは自由に発言。豊崎氏は志茂に隣接する北区若測町は不燃領域率が約51%と低いものの、自治会・町

東京都が防災を口実に推し進めている都市計画道路「特定整備路線」(28路線、延べ約25キロ)に反対する住民らによって結成された特定整備路線全都連絡会は3

日、7回目となる「止める! 特定整備路線2022全都集会」を2年ぶりに文京区内で開きました。

東京都は、延焼遮断効果のシミュレーションを根拠に特定整備路線を推進。市街地の不燃領域率が70%に達すると、ほぼ延焼はないとされていますが、都は市街地不燃化による延焼防止効果のシミュレーションを行っていません。岩見氏は「これでは不燃化を強化すれば特定整備路線は不要」と答えが引き出せない」と批判しました。

建設省が1982年に発行した「都市防火対策手法の開発報告書」では、「防災計画は地域の具体的条件を綿密に調査し、それに即し、柔軟に対応しなければならぬ」と強く求められていることが紹介。「建設省の報告書の内容を見ると、現在においては不燃化こそが優先されるべきであり、延焼遮断帯にしがみつくのは時代錯誤ではないか」と述べました。

「止める特定整備路線」集会

優先すべきは不燃化

観察公園など、すでに広大な延焼遮断ゾーンが存在していることから、道路整備は不要と指摘。「都は都市計画道路ありきの発想から、完全に思考停止している」と強調しました。

特効薬は「立ち退かない」

11月22日(火) 高裁前夜、貸切バスが朝8時半出発します。

赤羽駅前外のヨカ堂の裏から、乗車される方は、お一人1000円とおねがいします。

●高裁の傍聴に参加される方は、事務局 柳井(やない)shu. または 静勝寺 shu. に連絡。
<090-3963-9000> <03-3900-4455>